

■恒例 善光寺旅行会

平成二十九年五月十七日・十八日

大本山永平寺参拝

〈大圓武志大和尚入祖堂法要〉

恒例の善光寺旅行会、今年も曹洞宗大本山永平寺参拝、新緑の季節、住職はじめ総勢三十九名、一泊二日の参拝旅行でした。

五月十七日、五月晴れの空のもと羽田から空路小松空港へ。バスへ乗り換え、初日の参拝地御誕生寺へと向います。

福井県越前市にある御誕生寺は曹洞宗太祖瑩山紹瑾禪師の生誕地であり、曹洞宗の僧侶を育成する専門道場です。数多くの猫が暮らすことから「ねこでら」として人々に親しまれています。

現堂長板橋興宗禪師は曹洞宗元管長で大本山總持寺元貫首でもあられます。禪師様は善光寺先代住職とも親交深く、清水寺の瑩山禪師顕彰碑開眼法要の導師もお務め頂いております。また顕彰碑の題字も禪師様の揮毫です。

本堂にて御山内僧侶全員での善光寺参拝団の健勝を御祈禱頂き禪師様より思い出話を混じえたり有り難い御法話を頂きました。

『心配しなさんな。悩みはいつか消えるもの』板橋禪師近著（秀和システム発行）にも語られておりますが、「人生に無駄はない。苦を知ってこそ、人間は深まるのです。」とのお言葉に、ふと善光寺先代方丈が良く口にしていた言葉を思い出します。

「人生に善し悪しはないんだ。ただ今、おかれているその場所で精一杯のことをしたらそれでいいんだ。人生に無駄はない。精一杯やるか、やらないかだ。精一杯やっていたら必ず無駄に



はならない」。

禅師様の穏やかな語り口に、先代方丈から力強く教わった事を思い起こしました。

この旅行は、先代方丈様のお位牌を大本山永平寺ご開山道元禅師御廟・承陽殿にお祀りするための法要（入祖堂）が目的。

禅師様のお言葉「起こることに、幸も不幸も

ない。ただあるがままに生き、毎日を『好日』にいたしましょう」というお話にますます先代方丈様を重ね合わせました。六十歳で大病を患い、それからは病氣と二人三脚の生活ですと微笑まれる禅師様。「どう死ぬかより、どう生きるかが大事。死んだあとのことは死んでから考えよう」と示されるお言葉に、これから向かう永平寺の元貫首宮崎突保禅師様が語られたお言葉を思い出しました。

「正岡子規の『病牀六尺』という本には、人間は、いつ死んでもいいと思っておったのが、悟りだと思っておった。ところが、それは間違っておった。平気で生きておる事が悟りやった。と書いてある。何時死んでもいいと思っておったのが、悟りやったと。ところが、いつ死んでもいいどころではない。平気で生きておることが悟りやったと。分かるか。死ぬ時が来たら死んだらいいんやし、平気で生きておれる時は、

平気で生きとつたらいいんや」(『坐禪をすれば善き人となる』石川昌孝著 講談社)

一〇八歳で御遷化(亡くなられる)されるまで、一生修行された禪師様のお言葉です。修行僧の私達よりも朝早くから坐禪を組まれていたそのお姿と、永平寺の凜とした空気を思い起こし身が引き締まりました。

記念撮影ののち、僧侶の皆様と多くの猫たちに見送られながら次の目的地丸岡城へ出発。

国の重要文化財に指定された天守閣は現存する最古のものとされています。急な階段を登

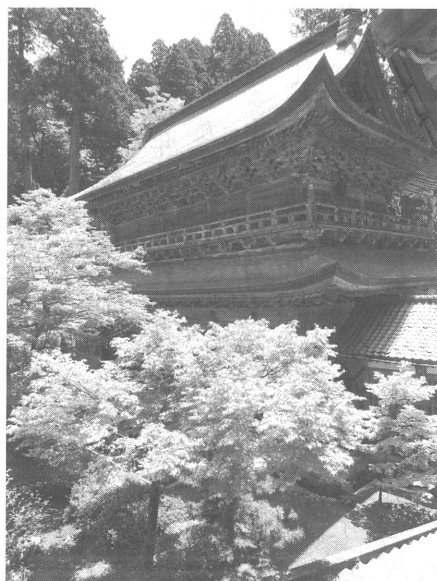


った先で一望した景色は格別でした。初日の最後はあわら温泉。旅の疲れを癒し、明日拝登する大本山永平寺に思いを馳せて身を清めます。

翌日も快晴に恵まれ、バスで一路大本山永平寺へ。

永平寺は、今から七百七十三年前の寛元二年(一一四四年)、道元禪師様によって開創された曹洞宗の大本山です。溪声山色豊かな山間に七堂伽藍を中心とした殿堂が建ち並んでいます。博志住職もここ永平寺で修行されました。今も多くの修行僧が、日夜修行に励んでいます。

境内は約十萬坪。樹齢七百年といわれる鬱蒼とした老杉に囲まれた静寂なたたずまいに自然と背筋が伸びます。法要前に控室で休憩をしていると、法要へ随喜するため早朝善光寺を發つた副住職も到着。諸堂を拝観しながら法堂へ。法堂では大勢の修行僧随喜のもと入祖堂法要が厳肅に執り行われました。住職を始め善光寺より随喜した僧侶も大勢の永平寺の僧侶と共に法堂でお経をお唱えしながら歩く姿は壯観でした。



『神奈川県善光寺二世中興大圓武志大和尚  
……』と導師様がお唱えする声も胸に篤く沁み  
ました。

法要後、精進料理を頂き、心もお腹も大満足。  
門前町でお買い物の一時を過ごし、小松空港か  
ら帰路につきました。天候に恵まれ、一切事故  
もなく老若男女皆仲良く楽しい有意義な参拝旅  
行でありました。

## 永平寺旅行

### 参加者のおたより

東京都大田区 齋藤貴美様

旅行会社の広告で永平寺への参拝旅行を目にするたび、一名では参加不可とのこと、長年残念な思いを重ねてまいりましたが、今回、善光寺の先代方丈様の御法要という形で参拝が叶



い、仏縁のありがたさを感じました。

永平寺の名前はよく知っておりましたが、これほどまでに深い場所、年輪を重ねた木々の間に建物が点在している様子に感動いたしました。大勢の僧侶に、修行僧が朗々と読経しながら法堂内を巡る御姿は素晴らしく、光り輝いているように感じました。

神奈川県横浜市 瀧澤道子様

初夏薫風の候 永平寺参拝旅行の際は大変お世話になり感謝申し上げます。また、記念写真をお送り頂き重ねてお礼申し上げます。

祈願読経は堂内に響き心地よく、満願成就を祝しているようでした。若い修行僧の方の優しいまなざし、きびきびした動作に道元禅師さま瑩山禅師さまの教えを守る熱意を感じました。本当にありがとうございました。善光寺様の益々の御活躍、御発展を心より御祈念申し上げます。

合掌





神奈川県横浜市 飯塚征子様

この度は大変お世話になりました。また、本日は写真をお送り頂きまして誠にありがとうございます。

永平寺様での昼食、その他個

人では実現し得ない体験をさせて頂き感謝しております。御誕生寺ご住職様のお言葉「愚痴をもらさないぞ…」を私も日々の生活の中に努力していきたいと思えました。まずはお礼まで申し上げます。



東京都 小山コウ様

浅草の三社様の祭りも近かったので永平寺の参拝旅行迷いましたが、二日間とも良い天気で行くことが出来、又、楽しく久しぶりのお友達とも逢うことが出来、皆さんの元気な姿を見てうれしい思い出の一つとなりました。これも善光寺さんのおかげだと感謝でいっぱいです。又、



早々に立派な写真をお送りいただきありがとうございます。ありがとうございました。



神奈川県横浜市 飯村信子様

拝啓 清々しい初夏を迎え、木々の緑も日増しに深くなつてまいりました。ご一同様にはなお一層お健やかにお過ごしのことと存じます。先日の永平寺参拝旅行、お世話様でした。また、お写真をありがとうございます。前回も今回も楽しい旅でした。永平寺本堂にての法要に参列させていただいたのは、身にあまる光栄でした。感謝申し上げます。時節柄、ご自愛くださいませ。

敬具

神奈川県横浜市 奥津光子様

前略 いつもお世話になっております。又、旅行の写真を送

つて頂きありがとうございます。善光寺様の旅行に初めて参加させて頂きましたが、とても楽しい旅行でした。永平寺参拝、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。









*The story of Grahams  
9th Century*